

平成12年度に新たに編入した飼料用とうもろこし推奨品種(4品種)

飼料用とうもろこしの極早生品種「ニューデント90日」・「ニューデント95日」、早生品種「ゴールドデントDK474」、晩生品種「パイオニア122日」の4品種は収量性や耐倒伏性、耐病性等に優れ、本県での高位安定生産が期待できる。

表1 生態特性と形態的特徴

品 種 名	早晩性	播種日からの日数				播種～黄熟期までの積算温度()		稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)
		発芽	雄穂抽出	絹糸抽出	黄熟期	有効	単純		
ニューデント90日	極早生	11	68	72	116	1122.0	2279.6	232.0	92.9
ニューデント95日	極早生	11	70	74	117	1159.1	2330.4	250.9	108.7
ゴールドデントDK474	早 生	12	76	77	126	1199.2	2464.9	245.3	99.3
パイオニア122日	晩 生	10	82	82	132	1311.6	2645.0	294.2	148.1

栽培適地は極早生品種が県下全域(特に高標高地)、早生品種が標高500m以下の県下全域、晩生品種が県中・南部の標高500m以下の地域である。

また、10a当たりの適正栽植本数は極早生品種7,500～8,000本、早生品種7,000本、晩生品種6,000本が目安である。

表2 障害、病害

品 種 名	不稔 割合 (%)	倒伏 割合 (%)	病 害 特 性				
			すす紋 (0~5)	ごま葉 (0~5)	黒 穂 (%)	根腐れ (%)	萎 縮 (%)
ニューデント90日	0.3	0.0	1.9	0.1	0.4	0.1	0.2
ニューデント95日	0.4	0.0	0.7	0.0	2.1	0.2	0.0
ゴールドデントDK474	0.8	0.6	0.2	0.2	0.7	1.1	0.3
パイオニア122日	0.8	0.0	0.0	0.0	2.1	0.3	0.0

注)すす紋病、ごま葉枯病:0(無)～5(甚)で評価。

ニューデント90日はすす紋病、ニューデント95日は黒穂病、ゴールドデントDK474は根腐れ病に対してそれぞれやや弱い面を持つてはいるが、実用上問題はない。また、その他の病害に対しては既存品種並～強い。

表3 収量性

品 種 名	生 草 収 量 (%)	乾 物 収 量				
		雌穂 (A) kg/10a	総重 (B) kg/10a	雌穂率 (%)	生産速度 kg/10a/日	TDN 収 量 kg/10a
ニューデント90日	6,205	1,070	1,880	56.9	18.0	1,381
ニューデント95日	6,542	1,074	1,896	56.7	17.2	1,362
ゴールドデントDK474	6,412	1,170	2,131	54.9	18.7	1,554
パイオニア122日	7,556	1,205	2,279	53.0	18.8	1,649

いずれの品種も乾物収量、TDN収量ともに既存品種よりも多収である。